

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 7年 3月 1日

事業所名 スマイルキッズ鍋島

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	3	0	一人になりたい時等個室のスペースはないが、他児を入れない、きちんと話を伝えたい時は1対1になれるよう工夫は行っている。	・学習スペースは設けてはいるが、運動のスペースは限りがあり十分とは言えない。今後は時間の調整等も視野に入れながら、場所の確保も検討していきたい。
	2 職員の配置数は適切である	7	0	0		
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	5	1	2階があるため、バリアフリーは困難である。	段差があり十分なバリアフリーではないが、手すりがない所では必要な利用者にはその都度支えたりしながら移動の介助を行っている
業務 改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7	0	0	ミーティング時には話し合いを行っている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	0		
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0	0		
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	0	7		現在第三者による外部評価を行っていない。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	3	0	時間を確保し、短時間のオンライン動画を視聴している。	
適切 な 支 援 の 実 施	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7	0	0		
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	3	0		今後、アセスメントツールの整備を行っていく。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	0	職員間で話し合いを行い決定している。長期休暇中にしかできないこと等を計画している。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	2	0		
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	1	0		
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	0	0		

提供	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	0		長期休みには必ずとは言えない所もあるが、担当等の確認は行っている。また、ミーティングノートなどを活用し、打ち合わせに参加できなかった職員は各自で確認をするようにしている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	4	0	翌日になる事もあるが、振り返りは必ず行っている。	出勤時間が異なるため、振り返りの時間に参加できなかった職員には必ず口頭での説明を行い、情報の共有を行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	0		
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7	0	0		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	4	3	0		
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	2	0		
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	6	1	0	送迎時間の確認をしたり、お迎え時に先生からその日の様子を伺ったりしている。年度初めに顔合わせや情報の交換等を行っている学校もある。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	3	4		現在、医療的ケアの対象児はいない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	1	4	2		情報交換を行う機会がないため、今後は必要に応じて情報共有を行っていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0	4	3		現在、移行対象児はおらず、今後状況に応じて提供を行っていく予定。
25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	4	2		専門機関での研修等を受ける機会を作れておらず、今後は計画を立てて参加していきたい。	

	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	2	5		場を設けてはいないが、お出掛け等も多いため、障がいのない子どもと接する機会はある。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	2	4		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0	0	送迎時には気になる事等をお伝えしている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0	3	4		ペアレントトレーニングとして時間を設けては行っていないが、送迎時必要な時に助言を行ったり、お話を聞いたりしている。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	0	0	契約の際にきちんと行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	2	0		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	1	0	コロナも5類になり久しぶりに開催する事が出来た。今後も継続して年に1回は計画していきたい。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	0		
保護者への説明責任等	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0	0	写真を掲載したりしながら月に1回活動の様子をお知らせしている。	
	35	個人情報に十分注意している	7	0	0	会報やSNSなどに写真を掲載する場合は事前に承諾をいただいた方のみ掲載し、お顔を隠すなどの配慮を行っている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	1	0	絵カードやジェスチャー等の使用を行い、意思の疎通を図っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	1	6		
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5	2	0		マニュアルの作成は行っているが、周知までは出来ていない。今後周知の仕方を検討していく。

非常時等の対応	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	0	火災・水害を想定して行っている。	地震時の対応については課題があるため再度協議を検討している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	0		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7	0	0		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	0	4	3	特に指示書がある方や食物アレルギーの対象はいない。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	1	0	ミーティング時に共有し改善策を考えるようにしている。	